

# 3月・4月の管理ポイント



ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第68号

寒い冬も終わりいよいよ芝生が目覚ます時期です!!  
 春先の管理で、しっかりした根をつくっていきましょう。



## プライマーセレクト

春先の灌漑管理が重要です...

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!  
 グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで伸ばさせます。  
 プライマーセレクトによりマトリックスフローを形成した土壌では、表層を乾燥状態にしても、一度の灌水で均一に水が浸透しますから安心して灌漑管理をして頂けます。  
 散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に十分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなる。  
 使用量：1~2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml~1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月~1ヶ月半に1回



## サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には...

3月、4月の更新作業時に処理することにより、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。  
 他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素を主体としているので土壌中でも安定して働きます。  
 従って農薬類の混用や近接散布が可能。  
 使用量：1~2g/m<sup>2</sup> 0.510/m<sup>2</sup>散布 使用回数：月1~2回



## ダイアジノンSLゾル・バイボン乳剤

休眠明けの害虫防除には...

3月は、越冬した虫が目を覚ます時期です。  
 コガネムシ類幼虫対象として、更新作業時にダイアジノンSLゾルを処理します。  
 ヨトウ、ツトガ幼虫対象として、ラフの除草剤散布の時にバイボン乳剤を処理します。  
 使用量：ダイアジノンSLゾル 250倍 0.7~110/m<sup>2</sup>、バイボン乳剤 2000倍 0.3~0.510/m<sup>2</sup>



## グリーンメカ・メカプラス

芝生の貯蔵養分を補うために...

3月、4月は、休眠明けの植物が生長する時期です。  
 特に3月上旬の萌芽期は、一斉に芽出しさせることが重要です(生育のバラツキをなくす)。  
 休眠前に貯蔵しただけでは不足しがちな糖類、ミネラルをグリーンメカ、メカプラスを処理することによって、補っていきましょう。  
 使用量：5~10ml/m<sup>2</sup> 110/m<sup>2</sup>以上



## カラーマーカー

除草剤散布のマーキングには...

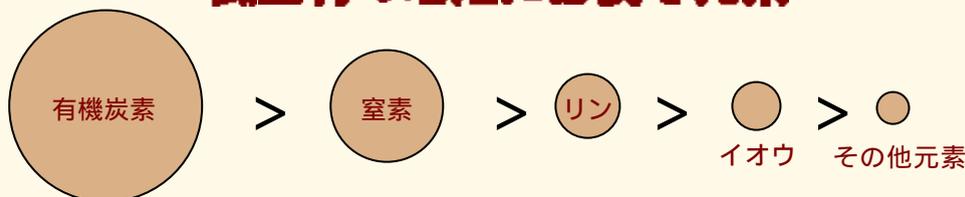
春の除草剤散布の際、散布箇所確認用《カラーマーカー》にご使用下さい。  
 内袋は、水溶性フィルムを使用していますので、そのままタンク車に入れていただけます。  
 作業時に手や衣服を汚しません、作業にはゴム手で取扱い、タンク投入前に汗などでぬれるのも防止下さい。  
 使用量：100010に対し1袋(50g)

# 土壌中の微生物について考えてみよう

ゴルフ場のベントグリーンは砂質の土壌が多い上に、定期的に薬剤散布を行わなければ、グリーンコンディションも高いレベルで維持できないので、有用微生物(有機栄養微生物)の定着・増殖には好ましい環境とはいえません。

では、有用微生物の増殖には何が必要とされるのでしょうか。

## 微生物の増殖に必要な元素

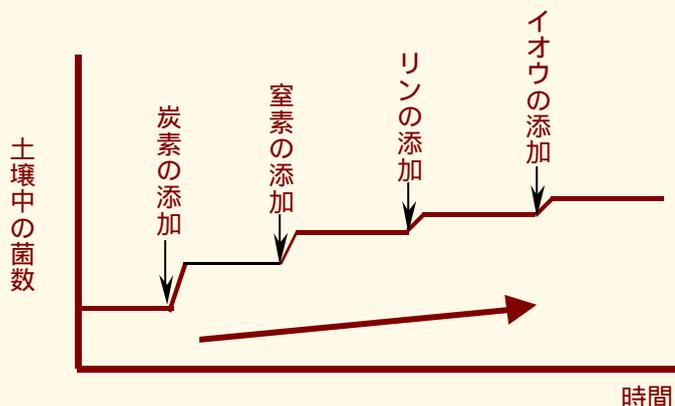


植物と違ってカリは少しだけでよい

土壌中には、有用微生物のエサのうち、有機炭素(黒糖などの糖類として取り込む)が最も不足しています。

というのは、微生物が食べた有機炭素のうち、7割以上は発酵や呼吸によって二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)として逃げてしまうからです。ですから絶えず補給しつづけなければなりません。

## 土壌への養分添加にともなう菌数の増加パターン



- ・炭素の添加でつくられる物質  
エネルギー源としてのATP(補酵素)  
細胞成分の糖、有機酸、脂肪etc
- ・炭素、窒素、イオウの添加でつくられる物質  
細胞成分のアミノ酸、タンパク質
- ・炭素、窒素、イオウ、リンの添加でつくられる物質  
細胞成分の核酸